



# 六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol. 128  
海文堂、震災、そして陳舜臣さん / 平野 義昌  
2016年10月発行

## 第128回テーマ 海文堂、震災、そして 陳舜臣さん+野坂昭如さん

- 海文堂書店について
- 陳舜臣
- 野坂昭如と六甲界限
- 陳舜臣・野坂昭如比較神戸考



**講師：平野 義昌さんプロフィール**  
1953年(昭28)神戸市中央区生まれ・在住、62歳。1976年関西学院大学法学部卒。コーベックス、三宮ブックスを経て、2003年海文堂書店入社。人文書を担当し、13年海文堂廃業後もパート仕事の傍ら、ミニコミなどに執筆を続ける。著書に『本屋の目』(みずのわ出版)、『海の本屋のはなし-海文堂書店の記憶と記録』(苦楽堂)がある。



海文堂閉店の賑わい

実施日：平成28年10月15日(土)  
午前10時～15時00分  
場所：六甲山自然保護センター、  
記念碑台・散歩道

### 秋晴れの活動

秋晴れの行楽日で、午前中の自然散策にはほぼ全員が参加しました。8名は散歩道の沿道のササ刈りに精を出し、10名(写真)は森と歴史の散歩道を楽しみました。午後の講演に19名が出席しました。



### 『六甲山物語』の店頭販売でお世話になった

平野さんとは10年以上前、海文堂に新刊の『六甲山物語』の店頭販売をお願いしたのがご縁でした。当時のご担当で、わざわざ六甲山コーナーを設けていただき恐縮しました。

そして今年の年頭、ミニコミ誌『ほんまに』17号に陳舜臣さん追悼の特集号を発行されたという新聞記事を眼にしました。陳舜臣さんはこの市民セミナーの講師にお招きしたいと念願していたお一人で、昨年末にお亡くなりになって、目論見はついに実現できませんでした。

このような事情から平野さんをお招きしました。直前には野坂さんの話もテーマに加えていただきました。

### 海文堂の話題から「神戸考」へとつながった

冒頭で100年におよぶ海文堂の歴史を紐解き、創業・再建・文化活動・震災・閉店の節目や経緯、書店のライフヒストリーといえる解説をされました。

馬券売り場建設運動に端を発し、地域の文化活動支援や陳舜臣さんとの出会いがありました。震災後に文化活動支援に注力し、それまで培った人間関係のネットワークを生かして、企業メセナ協会・メセナ奨励賞を受賞しました。地方の書店のユニークな活動が全国的に評価されたのです。

創立99年で閉店し、予想外の盛大な閉店行事になり、翌年には「99+1」という100年イベントが催されました。その後も平野さんたちが、ミニコミ誌『ほんまに』や、『海の本屋のはなし』の出版や著述活動などを続けています。

続いて、陳舜臣さんのお話です。震災後に神戸新聞に寄稿された「神戸よ」のメッセージに感激され、神戸出身の大作家が忘れられた存在になって



99+1記念誌

いるのに不満を感じて、『ほんまに』17号で陳舜臣追悼集を出版したと思いを語られました。陳さんが日本国籍の台湾人で民族差別に翻弄されたこと、著作の風景描写から神戸在住の作家としての地域への関心などを紹介されました。

新刊の『ほんまに』18号は神戸の空襲と作家たちの特集で、その中から野坂昭如さんの紹介です。「闇市焼け跡派」を自称し、多彩な活動を続けた野坂さんが、六甲界限で複雑な家庭で暮らしたことなどを説明されました。

終盤は陳舜臣さんと野坂昭如さんを対比し、神戸との関わりや神戸に抱く原風景を解説され、「命について平和について大仰に語るのではなく、体験からメッセージを出している」と共通点を述べられました。

### 「小さな歴史を大切に」は心に響く

平野さんは、「小さな歴史を大切に」と結びられました。『海の本屋のはなし』のあとがきに、福岡店長がお客さんから評価されたことを、「神戸という地域に根ざした姿勢。本屋を拠点としたさまざまな文化発信のありよう。偉ぶらず、本を求める人たちにできる限りオープンに扉を開けていたこと。本を媒介として極力お客様と対話を重ねようと務めてきたこと。儲けにならないバカなことも多々敢行してきたこと」の5つを挙げています。そのような実践がよくわかります。小さな歴史に目を向けることを大切にしたいですね。

※詳しくは2ページをお読みください。

### 参加の感想 木村明恵さん

今回が2回目の参加ですが、前回とはまったく異なる内容で、多方面からのアプローチを試みられていると拝察いたします。2013年廃業された元町の有名店・海文堂でご勤務されていた平野義昌さんの、本を通じたさまざまな関わり、神戸という地の奥の深さを感じました。海と山に囲まれた風光明媚な地。人と人との関わりも同じく明るく、その中から生まれる可能性を感じ、心温まるひと時となりました。



主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：神戸県民センター、灘区役所、神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】順不同

大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、  
コープこうべ環境基金、セブン-イレブン記念財団、  
GGG国立・国定公園支援事業